

## 大学記念館の活用と展開

### —東亜同文書院大学記念センターの場合—

東亜同文書院大学記念センター事務室 森 健一

#### はじめに

東亜同文書院大学記念センター（以下記念センター）では、毎年『同文書院記念報』にて、大学記念館の年間利用者数と予約参観記録を「東亜同文書院大学記念センター展示室利用状況」に報告している。今年度は、昨年度よりも多い3,081名（昨年度比50名増、一昨年度比500名増）であった。

本報告では、国の登録有形文化財である旧陸軍第15師団司令部庁舎を大学記念館として活用している愛知大学が、建物としての活用のほか、来館者の誘致を目的に、どのような取り組みを行っているのか、その活用と展開について今年度の記念センターの取り組みを具体的事例として紹介する<sup>1)</sup>。

#### 1. 資料公開の場としての活用

##### (1) NHKインターナショナル、ベトナム国営テレビVTVによる取材調査

大学記念館の1階には常設展示室があり、関係資料が公開されている。今年は日越国交樹立後40周年をむかえ、日本とベトナムとの交流について各メディアが取り上げる中、記念センターもNHKインターナショナルおよびベトナム国営テレビVTVから取材を受け、大学記念館内の展示室等で資料紹介をする機会を得た。

取材の目的は、潘佩珠（ファン・ポイ・チャウ）に関するノンフィクション番組<sup>2)</sup>の共同制作であ

り、具体的には、とくに東亜同文会が経営した東京同文書院（1899～1922年）と、そこで学んだベトナム人留学生に関するものであった。

当日の取材は、まずNHKインターナショナルから馬場センター長へのインタビュー形式で進められ、とくに東京同文書院と、潘佩珠（ファン・ポイ・チャウ）が推し進めた東遊運動との関わりについての質問が出された。その後、展示室にて関連資料の閲覧と撮影が行われた。

この機会を得たことで、大学記念館が日本だけでなく、海外での認知につながった。



インタビューを受ける馬場センター長（左）



展示室での関連資料の撮影

## (2) 譚璐美氏(ノンフィクション作家)の来館

本年度、ノンフィクション作家譚璐美氏<sup>3)</sup>が調査のために大学記念館に来館された。譚氏の父上は革命運動に参加し、亡命して早稲田大学に留学、その後中国国民政府外交部に任官、日中戦争期には汪精衛政権に参加し、日本に駐在した人物である。また大伯父にあたる人物は中国共産党の創設期から関わり、その後も活躍された方である。譚璐美氏はまさに激動の中国近現代史の中に自らのルーツがある方だといえる。譚氏は、展示室にて東亜同文書院大学や山田良政・純三郎、そして山田家の関連資料を閲覧し、あわせて愛知大学豊橋図書館にて孫文と彼を支援した日本人三上豊夷(とよつね)との間で交わされた上海証券取引所の設立構想の資料調査や松井石根の山田純三郎宛の手紙などの調査も行った。



資料説明をする馬場センター長(左)

## 2. 自校史教育の場としての活用

### (1) 豊橋校舎職員交流会

今年度から「豊橋校舎にて大学の教育・研究を支援する事務職員は現場を知ることが必要である」という認識の下<sup>4)</sup>、『豊橋校舎職員交流会』と称したさまざまなテーマの研究会、勉強会が始まった。5月に実施した第1回目は東亜同文書院大学記念センターが担当し、「大学を知る①大学史及び本学のルーツ東亜同文書院大学を知ろう」というテーマのもと、本学とルーツ校の東亜同文書院大学に関する自校史教育を行い<sup>5)</sup>、各部署の職員にとっては自学を知る機会とな

った<sup>6)</sup>。あわせて近藤智彦豊橋事務部長より大学記念館が1996年まで本館(事務棟)として機能していた頃のエピソードが紹介され、当時を懐かしむ職員もみられた。

なお、本学の歴史を紹介する機会に関して、普段は学外向けに実施することが多く、学内向けに実施することはあまりない。このことから、今回の交流会によって、他部署との連携を図るきっかけとなった。また、勤務歴が長い職員による愛知大学に関係した話も聞くことができ、アーカイブズの収集活動に資する機会となった。



武井センター研究員(右)の説明を聞く各部署の職員

### (2) 文学部新入生ガイダンス

文学部によるガイダンスが5月から6月にかけて実施され、大学記念館も見学の場となった。見学者は授業の一環ともあり、総勢480名もの新入生全員が来館した。新入生にとってはガイダンスを通して豊橋キャンパス内の建物の歴史を知ると同時に、記念センターの案内による館内の展示の説明によって、自校史を学ぶ機会ともなった。



新入生に説明する武井センター研究員(写真奥)

### 3. 地域振興の場としての活用

7月20日から9月1日の期間、公共交通の利用促進を図ることを目的とした豊橋市主催のスタンプラリー「とよはしバス・電車スタンプラリー2013—トヨッキーの夏休み絵日記—」が行われ、大学記念館がスタンプの拠点に選定された。スタンプの冊子は豊橋市内のすべての小学校に配布されたこともあり、期間中はグループで来館する小学生が多く見られ、来館者数は昨年度同月と比べて増加となった。

しかし、小学生にとって大学はまだイメージしにくい場所であること、またスタンプをたくさん集めると景品がもらえることから、スタンプ集めを優先するあまり、館内を見学せずに次の目的地へ移動してしまうケースがあった。その対策として、館内に豊橋市のマスコットキャラクターであるトヨッキーをいたるところに掲示し、小学生でも建物や大学を身近に感じてもらえるよう工夫したほか、館内への見学誘致として、スタンプの設置場所を当初の玄関から2階旧学長室へと変更することによって、館内をめぐるような工夫をした。さらに、大学記念館の認知度を上げるべく独自にクイズを出題するなど、積極的に来館者へ働きかける取り組みを行った。



大学記念館入口。期間中はトヨッキーの案内看板を設置



スタンプは旧学長室に設置



スタンプを集める小学生

〜調べてみよう〜

一、今いるこの建物は  
愛知大学  
センターといえます。  
記念

二、この愛知大学をつくった学長の  
名前は \_\_\_\_\_ です。

三、この建物で発見したことをこう！  
例 ● 建築資料館の資料を調べると、この建物は明治時代に建てられたことがわかった。

★ またご家族の方々や友達とこのセンターへ見に来て下さい。  
★ そしてたくさん発見して下さい。

**またきてね!**

スタンプを貼ってね!

愛知大学東亜同文書院大学記念センター お問い合わせ先: TEL0532-47-4139

記念センターのクイズも出題

#### 4. 帰属意識形成の場としての活用

11月3日には豊橋校舎にてホームカミングデイが開催され、卒業生など多くの大学関係者が大学記念館に来館された。

とくに本年は、愛知大学校友センター主催、(劇)上海自転車による公演「愛知大学創立者『本間喜一物語』—はじまりの手紙—」が記念会館および大学記念館にて上演され、事前に各新聞で告知されたこともあり、本学関係者だけでなく一般の方にも広く来場いただけることとなった。さらに、記念センターとしても毎年実施している出張展示の成果を学内にて披露できる機会ととらえ、公演とのタイアップとして過去の出張展示の成果をアーカイヴズ展「米沢と本間喜一」として再現し、創立者本間喜一に関する資料を来館者に展示して見せることで提供した。

このようにして、関係部署による大学記念館の活用(公演の実施)と、それに乗じた記念センターの展開(企画展示の実施)は、本学の卒業生など関係者に対する帰属意識の形成に資する取り組みとなった。



公演『本間喜一物語』。終了後は拍手が鳴り響いた。

#### おわりに

以上、大学記念館の活用と展開について、記念センターの事例を紹介した。記念センターでは本文で紹介したように、これまで館内の展示室を活用した来館者誘致の取り組みを行っており、展示案内や展示資料の解説、さらには展示室を活用した自校史教育を展開してきた。その

ほか、本年度では学外(豊橋市)や学内(校友センター等)との各機関と連携した取り組みを行った。そこで非常に示唆を得たのは、各機関が大学記念館を活用する際、いかにして記念センターがそれに乗じた活動を展開できるか、といったものであった。これを発展させ、たとえば展示会などでは共催という方法があるが、愛知大学では大学記念館という場を活用した連携企画という可能性を見出すことができるのではないかと考えられる。

なお、次年度は、6月に本学と豊橋市による研究会「丸山薫と中原中也」の開催が予定されており、大学記念館企画展示室ではパネル展が実施される予定である。このような大学記念館の活用に対し、記念センターとしての「展開」を提案することが今後の検討課題である。

#### 注

- 1) 2013年には東亜同文書院大学記念センターの大学記念館の保存と活用に関する取り組みが豊橋市より認められ、文化振興賞が授与された。
- 2) ベトナム国営テレビVTV(2013)『ベトナム独立の夢を日本に賭けた男』
- 3) 著書として、『チャイニーズ・トライアングル』(日本放送出版協会、1998年)、『中国共産党葬られた歴史』(文藝春秋社、2004年)、『阿片の中国史』(新潮社、2005年)、『江青に妬まれた女 ファーストレディ王光美の人生』(日本放送協会、2006年)、『中国共産党を作った13人』(新潮社、2010年) 2012年1月に『日中百年の群像 革命いまだ成らず』(上下巻、新潮社、2012年)など多数。
- 4) 2013年度第1回豊橋校舎課長会議(2013年4月19日)にて確認された。
- 5) 説明にあたり、武井義和センター研究員が東亜同文書院大学史関係を担当し佃隆一郎センター研究員が愛知大学史関係を担当した。
- 6) なお、本交流会は定期的に行われており、今年度は第6回まで実施されている。

# 東亜同文書院大学記念センター展示室利用状況(2013年度)

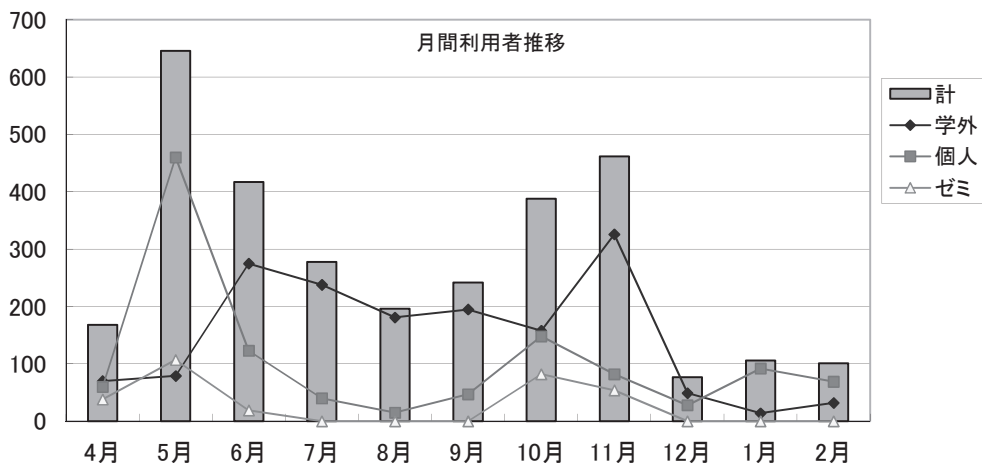
2014年3月1日現在

	学外	学内		(団体数)	計	(うち外国人)
		個人	ゼミ			
4月	70	60	38	0	168	0
5月	79	460	107	0	646	0
6月	275	123	19	4	417	0
7月	238	40	0	0	278	17
8月	181	15	0	1	196	2
9月	195	47	0	0	242	0
10月	158	148	82	3	388	0
11月	326	82	54	1	462	36
12月	49	28	0	0	77	7
1月	14	92	0	2	106	14
2月	32	69	0	0	101	0
計	1,617	1,164	300	11	3,081	76

(ゼミ2クラス)  
 (ゼミ6クラス)※「個人」に文学部1年生ガイダンス利用者(400名)含む  
 (ゼミ1クラス)※「個人」に文学部1年生ガイダンス利用者(80名)含む  
 オープンキャンパス、とよはしバス・電車スタンプラリー2013開催(7/20～9/1)  
 オープンキャンパス  
 (ゼミ5クラス)、現代中国学部豊橋キャンパスバスツアー  
 (ゼミ3クラス)、ホームカミングディ、アーカイヴズ展(11/3～30)  
 本学卒業生(団体)、上海の各小学校からの小学生と関係者(団体)

## <予約参観記録>(敬称略)

- |       |                                |        |                            |
|-------|--------------------------------|--------|----------------------------|
| 4月10日 | 手嶋明子様                          | 10月12日 | 愛大ユースホステルOB(35名)           |
| 4月11日 | NHKインターナショナル山本様他5名             | 10月18日 | 掛川東高校(40名)                 |
| 4月12日 | 譚璐美様(作家)                       | 10月31日 | 現代中国学部豊橋キャンパスバスツアー(150名)   |
| 5月14日 | 名古屋市博物館学芸員加藤様                  | 11月3日  | アーカイヴズ展および公演『本間喜一物語』(200名) |
| 6月5日  | 老人クラブ(60名)                     | 11月8日  | アイプロ取材(文学部学生1名)            |
| 6月18日 | 吉良高校(36名)                      | 11月9日  | 和歌山大学附属図書館 特任准教授 橋本様       |
| 6月28日 | 知立高校(31名)                      | 11月18日 | 内蒙古大学・EMBA学生(36名)          |
| 6月29日 | 博物館実習(30名)                     | 12月6日  | 東京学芸大学(3名)                 |
| 7月8日  | 高野史江様(ラジオパーソナリティ)              | 12月7日  | 有森茂生様                      |
| 7月8日  | 台湾・中央研究院、東呉大学、<br>国父紀念館、徳霖技術学院 | 12月17日 | 愛知大学デュアルディグリー学生(7名)        |
| 7月14日 | オープンキャンパス(99名)                 | 12月19日 | カナダ・ブリティッシュコロムビア大学 久保田竜子教授 |
| 8月2日  | 香港浸會大学(香港)<br>南洋理工大学(シンガポール)   | 1月8日   | 八戸学院大学副学長                  |
| 8月10日 | 豊橋ユネスコ協会                       | 1月11日  | 文学部史学科OB・OG(16名)           |
| 8月27日 | 第41回古代史サマーセミナー(44名)            | 1月24日  | 上海からの小学生14名(教育旅行)          |
| 9月4日  | 豊橋美術博物館(4名)                    | 2月14日  | 日本学術会議会長大西隆氏               |
| 9月29日 | オープンキャンパス(133名)                | 2月28日  | 東日新聞記者                     |



※ 以上は事務室の確認できたものに限る。